



## 大学 ICT 推進協議会 2011 年度年次大会参加報告

甲斐 郷子<sup>1</sup>  
井上 純一<sup>2</sup>

### 1 はじめに

大学 ICT 推進協議会は「高等教育・学術研究機関における情報通信技術を利用した教育・研究・経営の高度化を図り、我が国の教育・学術研究・文化ならびに産業に寄与する」(定款 [1] より抜粋) ことを目的として、2011 年 2 月に設立された一般社団法人である。九州工業大学は設立発起人大学として当初より大学 ICT 推進協議会に参加しており、協議会理事には教育・情報担当理事の尾家教授が就任している。2011 年 12 月 7~9 日には第一回となる年次大会が福岡国際会議場にて開催され、盛況のうちに終了した。

本稿では、大学 ICT 推進協議会の設立経緯について説明した後、筆者らが実行委員として参加した大学 ICT 推進協議会 2011 年度年次大会について報告する。

### 2 大学 ICT 推進協議会設立前から設立まで

現在、大学では、教育・研究活動だけでなく事務や大学運営など多くの分野で情報通信技術 (ICT) を利活用することが積極的に行われるようになってきている。多くの大学で ICT への資金・人員投入が以前にもまして行われているが、その投資が効率的にかつ効果的に行われるためには、大学 CIO (Chief Information Officer) による全学的な ICT マネジメントが重要となる。

米国、カナダ等では大学 CIO から研究者、教育者、IT スタッフまで、大学における ICT に携わる人々を大学の枠を超えて組織化し、ICT にかかわる情報や課題を共有するため、1998 年に EDUCAUSE を立ち上げている。EDUCAUSE では各大学で利用可能なシステムの開発、ICT に関する大規模調査や各種提言、有益な情報共有や議論などが行われているため、(特に国立大学法人化後の) 日本において大学 CIO の役割の重要性が認知されるようになると、その知見を求めて EDUCAUSE に参加する大学も出てくるようになってきた。

そのような背景のもと、EDUCAUSE 年次大会に参加した有志および国立大学情報教育センター協議会の主要メンバーを中心として「大学 CIO を頂点とする高等教育機関の ICT 利活用のための横断的組織の設立に向けての設立準備ボランティアグループ (通称: 日本版 EDUCAUSE 設立準備ボランティアグループ)」が、日本でもオールジャパンで同様の組織を立ち上げるために活動を始めた。日本版 EDUCAUSE 設立準備ボランティアグループは、コンセプト固めから、大学 ICT 推進協議会の定款、活動内容案の作成、国内各組織への根回しなどといった活動を約 1 年間行った [2]。

一方、本学情報科学センターが所属する国立大学情報教育センター協議会では、情報教育研究集会 [3] (以降「研究集会」と記載) 開催や情報倫理ビデオ作成などの情報教育、情報基盤に関する活動を長年行ってきた。しかし、12 大学の情報教育センターという比較的小さな任意団体による活動には限りがある。

<sup>1</sup>情報科学センター次長 准教授 kay@isc.kyutech.ac.jp

<sup>2</sup>情報科学センター 技術専門職員 inoue@isc.kyutech.ac.jp

あった。日本版 EDUCAUSE 設立準備ボランティアグループとしての活動と並行し、国立大学情報教育センター協議会は、協議会の主な活動を大学 ICT 推進協議会へ引き継ぐ方向性を確認し、解散を決定した。

設立総会は 2010 年 12 月 11 日に京都テルサにて最後となった研究集会終了後に開催され、設立趣意説明、会長選任、活動計画説明等が行われた後、EDUCAUSE Board Chair の Ted Dodds 氏により北米の大学の ICT 組織の協働状況および方向性についての記念講演が行われた。設立総会には 280 名を超える参加者がおり、多くの方々がこの組織に興味をもっていたことが伺える。

### 3 第一回年次大会の概要

大学 ICT 推進協議会 2011 年度年次大会は以下の要領で開催された。

- 開催日時： 2011 年 12 月 7 日(水)～ 9 日(金)
- 開催場所： 福岡国際会議場 (〒 812-0032 福岡市博多区石城町 2-1)
- 主催： 大学 ICT 推進協議会
- 後援： 文部科学省
- 参加対象者： 高等教育機関及び学術研究機関において、利用した教育、研究、経営等に携わる教職員。高等教育機関向け ICT 活用製品を提供する企業。大学 ICT 推進協議会の会員非会員機関に関わらず参加可能。
- URL： <http://axies.jp/ja/conf2011>

初日に企画セッション、2 日目に一般口頭発表、一般ポスター発表、企画セッション、特別講演、全体会、3 日目に一般口頭発表、一般ポスター発表、企画セッションが実施された。展示会は会期中を通して開催された。次ページに大会プログラムを掲載する。プログラム全体からみて、研究集会の従来分野である情報教育・基盤分野だけでなく、新たに対象分野とした事務系や図書館関連のセッション、大学 ICT 推進協議会の部会企画、企業セミナー等の新たな試みがあることが分かるだろう。

企画セッションについては、オーガナイザより提出された企画提案書に基づき、実行委員会にて審査・採択する形をとったが、第一回ということもあり、プログラム編成時までに集まった企画提案書をすべて採択することとなった。

全体会では、国内から放送大学長の岡部氏による「ICT 教育の現状とこれから」、海外から The Chair of EDUCAUSE Board of Directors の David Lassner 氏による「Collaborating for Success Among Institutions and Nations(成功への連携：機関や国境をこえて)」の 2 件の招待講演があった。

展示会では企業展示用と大学展示用の 2 種類のブースを用意し、Web サイトで公募すると同時に、大学 ICT 推進協議会賛助会員や研究集会に出展した事がある企業等を勧誘した。35 社、7 大学からの出展があった(複数ブース利用あり)。

また、年次大会中には大学 ICT 推進協議会部会の会合がいくつか開催された。中でも会員大学の CIO を対象とした CIO 部会では、CIO 間での情報交換だけでなく展示会参加企業との名刺交換会も行われた。

今年度年次大会の参加者数、発表件数は以下の通りである(大学 ICT 推進協議会 [1] による)。  
 参加総数：924 名(来賓等 5 名含む)、発表件数：166 件

	会員	非会員	学生	計
参加登録者数 (展示会関係参加者含まず)	292 名	278 名	13 名	583 名

	ブース数	出展者数 (2 名/ブース)	出展説明者数 (5 名/ブース)	計
展示会関係参加者	48 ブース	96 名	240 名	336 名

大学ICT推進協議会 2011年度年次大会 プログラム

12月7日(水) 展示会 (13:30-17:00)

4階 会議室							2階 セミナー会場
A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	K会場
11:00							
12:30			C1: 大学におけるソフトウェアライセンスの現状と今後の課題	E1: 機関調査(インスティテューショナル・リサーチ)を体験するワークショップ		G1: モバイル世代型教育支援プラットフォームで実現する教育の質の向上と学校競争力・ブランド力の強化	
昼休み							
13:30			C2: 大学連携から見た学術・教育コンテンツの開発・蓄積・共有再利用	E2: 高等教育機関におけるソフトウェア開発とソフトウェア著作権について		G2: 大学の事務情報化の経緯と現状について	K2: 授業の原点である黒板講義 - 「収録を意識せずにコンテンツ収録」を実現
15:00							
休憩							
15:30							
17:00				E3: オープンソース技術部会(SIG-OSS)に期待すること		G3: これからの大学院の全学共通情報教育と教育情報化環境	K3: 大学の競争力を高める、クラウドへの道
休憩							
17:30	M4: ウェルカムレセプション						
19:00	(2階 コミュニケーションスペース)						

12月8日(木) 展示会 (9:30-17:00)

A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	K会場	
9:30	A5: 教育支援(1)		C5: 高大連携と初年次情報教育	D5: 情報倫理とセキュリティ	E5: 応用システム	F5: 情報教育(1)	G5: e-Learning環境を構築する上での学認の活用事例と今後の展開	K5: 今はじめられる大学のBCP(事業継続計画)を考える
10:45								
休憩								
11:15	A6: 教育支援(2)	B6: 一般ポスター	C6: e-learning(1)	D6: 情報基盤とその運用(1)	E6: 新しいメディアの利用(1)		G6: デジタル・アーキビスト資格の現状-デジタル・アーカイブ開発研究と人材養成	K6: クラウド時代のインフラ構造改革と産業界の新たな取組み
12:45								
昼休み								
13:30	M7: 特別講演 大学の情報通信基盤に関する東日本大震災による被災状況と防災対策							
14:30	(3階 メインホール)							
休憩								
15:00	M8: 全体会							
17:00	(3階 メインホール)							
休憩								
17:30	M9: 情報交流会							
19:30	(2階 コミュニケーションスペース)							

12月9日(金) 展示会 (9:30-15:00)

A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	K会場
9:30							
10:45		C10: e-learning(2)	D10: 情報基盤とその運用(2)	E10: 災害時におけるBCP(事業継続計画)について-東日本大震災を例として		G10: これからの大学での情報教育	
休憩							
11:15	A11: 教育支援(3)	B11: 一般ポスター	C11: e-learning(3)	D11: 情報基盤とその運用(3)			K11: キャンパスクラウドを支えるハイブリッドクラウドとiPadを活用した協働学習支援システムのご紹介
12:30							
昼休み							
14:00	A12: 教育支援(4)		C12: 新しいメディアの利用(2)	D12: 情報教育(2)		G12: ITベンチマーキングとは何か	K12: 第3世代登場! スマートデバイス向け教材作成サービス「Handbook」活用事例のご紹介
15:15							
休憩							
15:45	A13: 教育支援(5)		C13: iPhone/iPod touchを活用したアクティブラーニング	D13: 情報教育(3)		G13: OCW、ソーシャルラーニングプラットフォームへの可能性と課題	
17:00							

- 一般講演、一般ポスター等
- 企画セッション・企業セミナー

大学ICT推進協議会2011年度年次大会論文集より

	基調講演	特別講演	企画セッション	一般口頭発表	一般ポスター発表	計
発表件数	2件	1件	21件	107件	35件	166件

本学からの参加は以下の通りである(敬称略)。

- 一般口頭発表 5 件
  - 著者：西野 和典(九州工業大学)  
 題目：初等中等教育での新しい情報教育と大学教育への接続  
 (C5:高大連携と初年次情報教育)
  - 著者：小林 順, 廣瀬 英雄, 小林 史典, 岡本 卓, 宮野 英次, 齊藤 剛史(九州工業大学)  
 題目：アイデア実現型物作り教育とそのためのチュートリアルウェブサイト  
 (E5:応用システム)
  - 著者：山口 真之介(九州工業大学)  
 題目：教員の希望を考慮した講義アーカイブシステムの検討  
 (E5:応用システム)
  - 著者：中村 豊, 戸田 哲也, 反町 裕司(九州工業大学)  
 題目：技術職員向け講習会の実施  
 (D10:情報基盤とその運用 (2))
  - 著者：佐藤 彰洋, 戸田 哲也, 福田 豊, 中村 豊(九州工業大学)  
 題目：キャンパスネットワークにおける IPv6 の導入とその課題  
 (D11:情報基盤とその運用 (3))
- 一般ポスター発表 1 件
  - 著者：林 朗弘, 西野 和典, 三浦 元喜, 尾家 祐二(九州工業大学)  
 題目：eポートフォリオを使った学修自己評価の取り組み
- 企画セッション 3 件(オーガナイザー 1 名, 発表者 3 名)
  - E2: 高等教育機関におけるソフトウェア開発とソフトウェア著作権について  
 オーガナイザ：吉田 隆一(九州工業大学情報工学研究院)
  - C2: 大学連携から見た学術・教育コンテンツの開発・蓄積・共有再利用  
 3. 大西淑雅・山口真之介(九州工業大学)「学習素材の共有と学習コンテンツの開発における課題」  
 (オーガナイザ：山田 恒夫(学術・教育コンテンツ共有流通部会主査、放送大学))
  - E2: 高等教育機関におけるソフトウェア開発とソフトウェア著作権について  
 3. 荻原 康幸(九州工業大学産学連携推進センター)「技術移転を円滑にするソフトウェア著作権運用-九工大の取り組み-」  
 (オーガナイザ：吉田 隆一(九州工業大学情報工学研究院))
  - E3: オープンソース技術部会(SIG-OSS)に期待すること  
 4.1 大西淑雅(九州工業大学 e-ラーニング事業推進室)「Moodle サブグループ」  
 (オーガナイザ：中野 裕司(オープンソース技術部会主査、熊本大学総合情報基盤センター))

- 展示会(大学展示用) 1 ブース
  - － 担当者：林 朗弘(九州工業大学学習教育センター)
    - e ポートフォリオシステム(学修自己評価システム, 研究開発計画書・報告書システム), 指導カルテシステム, 高校物理 e ラーニング教材, 演習付き物理実験ビデオ, 物理アニメーション教材などのデモ展示

#### 4 年次大会実行委員会への参加

会場確保の都合上, 年次大会の日時, 場所については, 設立準備の時期(2010年秋)に内定していた。しかし, 2011年前半は設立登記, 通常総会・記念講演会の開催対応等で事務局が多忙, かつ会員校への実行委員推薦依頼を経たため, 実行委員会が実際に構成されたのは, 2011年7月以降であった。準備期間を十分に取ることができないスケジュールであったため, 研究集会における実施方法をベースに, 可能な範囲で対応することとなった。

大会委員長は, 大学 ICT 推進協議会会長の安浦氏(九州大), 実行委員長は九州大の井上氏が就任した。実行委員会の構成は以下の通りである(カッコ内は責任者。敬称略)。

- 展示担当(京都大・喜多): 展示勧誘, 連絡調整等
- プログラム担当(室蘭工大・刀川): 発表申込書書式, 発表分野(キーワード), 著作権規定, 論文賞・ポスター賞表彰規定の作成, プログラム編成, 座長依頼等
- 企画担当(大阪大・竹村): 企画セッションについての内容検討, 準備, 実施等
- 渉外担当(九州大・久志): 来賓, 特別講演・基調講演者(EDUCAUSE, 文部科学省等) 対応等
- 全体会企画担当(九州大・藤村): 全体会の内容検討, 準備, 実施等
- 会場担当(熊本大・中野): 受付, 受付設営, 会場案内, 分科会会場設営等
- 会計担当(九州大・久志): 会計処理全般
- アルバイト担当(九州大・山崎): アルバイトの確保, 契約等
- 広報担当(九州大・井上): Web 広報, 各種申込みシステムの対応等
- 設営担当(九州工大・甲斐): 展示会場設営, ポスター会場設営, 看板作成, レンタル物品管理等

筆者らは鹿屋体大の和田氏と共に設営を担当した。担当した内容については以下に示す。

- 対応
  - － レイアウト, 設備, 貸出備品, 移動経路等に関する現地調査およびヒアリング
  - － 会場からの借用物品・大学からの持ち込み物品・購入物品の選定, 借用・購入対応
  - － 設営業者選定, 仕様書策定, 契約, 施工監督
  - － ネットワーク機材の搬入・設置・設定・管理, 外部接続契約
  - － 掲示物等のデザインおよび印刷, 設置場所の指定と設営, 各種申請
  - － アルバイトへの指示, 出展者との窓口(設営関連), 入退出管理

● 対象

- 展示会用ブース・倉庫：照明，ネットワーク，電源工事含む（業者）
- 全体集会会場：舞台，動線，座席，映像・マイク，同時通訳ヘッドフォン等
- 分科会会場：什器（机，椅子等），プロジェクタ，音響機器，ネットワーク等
- ポスター会場：什器（机，椅子，パネル等），消耗品等
- コミュニケーションスペース：什器（机，椅子等），電源等
- その他：ポスター，看板，掲示物等

ただし，年次大会前日の準備作業，当日の各種作業については担当実行委員 3 名では足りず，本学情報科学センターの福田，戸田，林，佐藤各氏，鹿屋体大の福森氏に携わっていただいた．これらの方々には心から感謝申し上げます．

また，本学は会場となった福岡国際会議場からもさほど遠くないことで，ローカルアレンジメントの一員として他担当をフォローする役割も担った．

## 5 おわりに

大学 ICT 推進協議会 2011 年度年次大会は，短い準備期間であったものの無事に終了した．第一回年次大会ということで，運営ノウハウがまだ蓄積されておらず，加えてさまざまな試みが行われたため，種々の不手際があったように思う．ご容赦いただけると幸いである．なお，大学 ICT 推進協議会からの年次大会開催報告は，2012 年発行の機関紙に掲載される予定である．

来年度年次大会は 2012 年 12 月 17 日（月）～ 19 日（水）神戸国際会議場にて開催される．引き続き皆様のご協力，ご参加をお願い申し上げます．

## 参考文献

- [1] 大学 ICT 推進協議会 <http://axies.jp/>
- [2] 鳩野逸生「大学 ICT 推進協議会の紹介 日本版 EDUCAUSE」神戸大学情報基盤センター広報誌 MAGE Vol.31, No.39(2011.3)
- [3] 甲斐郷子「平成 20 年度情報教育研究集会開催報告」九州工業大学情報科学センター広報第 21 号 (2009.3)